チョコレート

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
　この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
チョコレート

【Ｎコード】
Ｎ７３３６Ｎ

【作者名】
山羊ノ宮

【あらすじ】
時に一粒のチョコレートが人生を左右する事がある。
それは遭難した時やセントバレンタインデーの様な特別な状況下でなくともだ。
その日いつも通り私は仕事を終え、風呂に入り、汗を流した。

時に一粒のチョコレートが人生を左右する事がある。
それは遭難した時やセントバレンタインデーの様な特別な状況下でなくともだ。
その日いつも通り私は仕事を終え、風呂に入り、汗を流した。
そして、冷蔵庫を開け、ビールを取り出す。
「おっ」
その時に気がつく。
卵のパックの近くにワサビのチューブと共にチョコレートがひとつ、銀紙に包まれて置いてあった。
私は何も考えず、銀紙を外し、チョコレートを口に放り込んだ。
それから食事をそこそこに、つまみとビールを飲み食いした。
「お父さん・・・おかえり」
くしくしと目をこすり、起きてきたのは愛娘の優奈だった。
少し物音をたてすぎたかなと、起こしてしまった事を悔いた。
優奈は寝ぼけた足取りで冷蔵庫を開ける。
そして、冷蔵庫を開けたままぼけっとしていた。
「どうした、優奈？お茶か？注いでやろうか？」
返事がない。
じっと冷蔵庫の中を眺めている。
「チョコ、ない」
「ああ、あれ優奈のか。ごめんな、父さん食べちゃった」
「チョコ・・・」
ぼんやりした眼が見開かれたかと思うと、優奈は「うわ～ん」と泣き出した。
「今度また買ってくるから」となだめてみても、何度謝っても優奈は泣きやまず、結局妻までも優奈の泣き声に起きてきた。
どうしたものかと事情を話すと、妻はあきれ顔で優奈を抱きあげる。

「悪いお父さんだねー。優奈の代わりに今度ちゃんと怒ったげるからねー」とすっかり私は悪者扱いである。
確かに子供のおやつを食べてしまうのは大人げないのかもしれないけれど、そこまで責められなければならないものかと、少し不満を持った。
それからである。
優奈のおやつにはいつも『おとうさんたべたらダメ』と紙が貼られるようになったのは。
それだけでは無い。
顔を合わせてもプイッとそっぽを向くようになった。
たまの休みに一緒にお風呂に入る事も無くなった。
仲裁してくれるはずの妻はにやにやとしているだけで、役に立たない。
一般的に娘を持つ父親は、娘が成長するにつれて、娘に邪険にされる様だ。
確かＤＮＡの近しいもの同士が交配しないようにするための仕組みが人間には備えられていて、女性は鼻が敏感で、そのホルモンでかぎ分けられると言う話である。
詳しい話はどうでもいい。
今大切なのは優奈の事である。
いずれそんな日も来るのだろうとは覚悟していたが、優奈まだ小学一年生だ。
早い。
早すぎる。
もっとスキンシップがあっても良いだろうと思う。
ああ、あの時チョコレートを食べてなければと私は後悔するのだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7336n/

チョコレート

2010年10月9日07時30分発行